

2024 年度春季 グローバル・インターンシップ(GI)プログラム 参加報告書

学部:経済 学科:金融 学年:2 年

① インターンシップ先

株式会社力日本語

② 参加の目的

私がこのインターンシップに参加したのは、新しい国でいろいろな人と一緒に働きながら、自分の国際交流力をもっと伸ばしたいと思ったからです。

前にカンボジアで、現地のどの食べ物が好きなのかということを考え、現地の食べ物の売り方、値段、販売場所といったマーケティングの 4P を意識して、一から食べ物を作り、その食べ物の売り上げを教育施設に寄付する活動をしたことがあります。そのときに、価値観が異なる人々と物を一から作り、外国の人々に売るといった活動の楽しさを知りました。しかし、次は価値観の異なる日本人ではなく、価値観の異なる外国の人々とともに、ビジネスの場で働き、ビジネススキルを身に付け、異文化理解を深めたいと考え、参加に至りました。

いろんな考え方の人と話し合うことで、新しい考えを受け入れる力もついたと思います。この経験は、これからの自分の成長にとっても役立つと感じています。

③ ベトナム:オンラインでの事前講座について

1日目と2日目で内容が異なりました。主にテーマとしては、グローバル人材の育成ということがテーマでしたが、1日目では、海外経験が豊富な社会人の方々からお話を聞き様々な質問をさせていただく機会がありました。一方、2日目では、海外の大学の学生と英語を使用して雑談をする機会がありました。

1日目では、様々な社会人の方々からお話をさせていただきました。それぞれインターンシップ先のチームごとに話を聞いた社会人の方が異なりました。我々ハノイチームの一部メンバーは、Oさん、Gさん、Aさん、Fさんという4人の方々からお話を伺う機会がありました。それぞれ大変勉強になるお話をさせていただきました。Oさんは、地元岩手の社会福祉の大学を卒業されたのちに東京のITの会社に入社されたという異例の経歴を持っている方でした。大学生の新卒は、仕事の領域が大きく広がるため、BtoCよりもBtoBのほうがよりよいのではないかという話などをさせていただき、我々がベトナムでインターンシップをする上で、交流が欠かせないベトナム人の性格について深く教えていただきました。Gさんは、もともと物流系の企業で働かれており、その後にフィリピンやベトナムでコンサルタントとしての経験を積まれている方でした。キャリアについて深く考えるべきだということをご教示いただきました。やりたいことをリストアップしたのちにそのやりたいことをキャリアの理論へアプローチしていくことの大切さをご教示いただきました。海外で働くことなどを前提に、海外へ足を運び、海外での経験を積もうという決断をすることは、不安ではあると思うが、とりあえずやってみることが重要だをご教示いただきました。そしてやってみる前とやってみた後での自分の人生を幸せにするための答えを見つけ出すことが求められるとおっしゃっていました。Aさんは、スポーツイベントをダナンで開催することで日本文化を海外に届けようという活動を行っている方でした。それほど日本を愛しているということがよくわかりました。私は、Aさんに海外での生活で最も困難であるが乗り越えられたときに喜びを感じることができる瞬間は何かということ質問させていただきました。Aさん曰く、異国の地では言語が通じないことが最も困難だとおっしゃっていました。しかし、現在は、翻訳機能の発達が進んだりした結果乗り越えられる部分も多々あるため、積極的にコミュニケーションをとることができると、喜びが味わえると、おっしゃっていました。最後にFさんという方からは、海外では、いろいろなことを見ることにより経験をして好きなことを見つけることの大切さを話していただきました。海外で好きなものは、日本で好きなものになるという重要なことも教えていただきました。Fさんは、海外での留学と約半年にわたる長期海外インターンシップの経験があるようでし

た。このように海外経験が多い方は、語れることが非常に多いと感じました。

上記のように様々な海外経験のあるかたのお話を聞くことで、皆さんに共通することは興味があれば海外に挑戦し、新しいことを発見し果敢に立ち向かっていくことが重要だということを強く認識することができました。

2 日目は、グローバル人材の育成が準備講座におけるテーマでした。そのため、2 日目には様々な海外の人々と英語で会話をし、お互いの趣味や大学で学んでいること。お互いに聞きたいことなどを幅広く話し合いました。SNS などをお互いに交換し、自分の英語力を知るとともに海外の人々と話すことの楽しさがよくわかりました。

1 日目と 2 日目の準備講座を通して、日本の文化や価値観を理解して、様々な視点から物事をとらえ、言葉や文化が違ってもコミュニケーションがスムーズにとれる。自分の考えを持ちながら相手と協力し、アイデアを考えて新しいものを作るとともに、自分だけではなく周りの人のために行動できるようにすることが大事だということを強く認識しました。

④ 現地でのインターンシップについて

現地でのインターンシップ期間中に実施したことは主に 5 つあります。まず、日本語教材の不適切表現や現代日本語にふさわしくない表現の除去および修正を行いました。次に、ベトナムから日本に行き、働く予定のある人向けのディスカッション教材を作成しました。この教材は、あるテーマについて話し合う方法を学ぶことを目的としており、「自由討論」「ディスカッション」「ディベート」の 3 つの話し合いの形式を活用し、それぞれの特徴を理解しながら学習を進める内容でした。例えば、「仕事ができる人とはどのような人か?」といったテーマを設定し、3 つの形式を使って話し合う手順を説明するもので、各形式ごとに 5〜6 個のテーマが設定されていました。ディスカッションの目的としては、グループディスカッションを通じて個々の個性や能力を把握し、人事の参考にする、また論理的思考力やコミュニケーション能力を高め、日本語力の向上を図ることが挙げられます。さらに、「日本でのビジネスマナーと生活知識」という授業資料の概要作成も担当しました。この授業資料は、ベトナムから日本に渡航し、現地で労働する予定のある人々を対象としており、日本での生活に必要な知識を学び、円滑なコミュニケーションと仕事のスキル向上を目指すことを目的とした授業で使われるものです。授業資料の作成では、各学習テーマに対して学習目標とスライドでそれぞれのテーマについて教える時の流れ(理論→重要語彙→読解問題→聴解問題)の作成を行いました。例えば、「日本の企業文化」をテーマにした場合、「日本の企業文化の理解」を学習目標とし、そのテーマを理解するための授業の流れ(理論→重要語彙→読解問題→聴解問題)を作成しました。提供されたスプレッドシートに左記のステップを記入する欄が設けられておりそこに記入する形でした。また、TikTok 撮影では、ベトナム語と日本語を楽しく学べるエンタメ系コンテンツを探し、実際にその内容を真似して撮影を行いました。この撮影は 2 週目の月曜日と 3 週目の月曜日に実施しました。さらに、学生との交流会や授業の実施にも携わりました。交流会では、お互いに質問し合うことで関係を深め、最終週の水曜日には、事前に与えられた教材をもとに授業(日本語の授業)を実施しました。

インターンシップ中の勤務環境については、昼休憩が 1 時間半あり、同じタイミングでインターンに来ていたインドネシア国籍の方や、企業で長期インターンをしているベトナム人学生と一緒にランチに行くことが多かったです。また、昼休みの時間帯は 12 時から 13 時 30 分までで、そのうち 30 分ほどは昼寝の時間が設けられており、多くの従業員が別室やデスクで仮眠をとる習慣がありました。退勤時間は 17 時 30 分頃で、ほとんどの人がその時間になると 10 分以内に退社していました。これは、ベトナムにおける家族第一主義の影響が強く反映されていると考えられます。また、(株)カ日本語の皆さんはとても親切で、勤務時間中にフルーツや食べ物を分けてくださることもあり、温かい職場環境で働くことができました。

⑤ インターンシップによって得られた学びや気づき

インターンシップにより得られた学びや気づきは主に二つあります。一つ目は、タスクの目的を意識

し、ひとつの作業を丁寧に進めることの重要性。二つ目は、報連相を徹底化し、積極的に行動することの重要性です。一つ目の重要性は、教材作成で感じました。ただ早めに一つのタスクをこなして次のタスクをもらいに行くということをするのではなく、そのタスクで作成した教材を読むのは誰なのか。果たして自分が作成した教材の中身を学ぶ人が見てわかるのか。という二つの事柄を意識して丁寧に業務を行ったことで、とても学ぶ上でわかりやすい教材を作成することができました。具体的に、最初に私はSDS法と呼ばれる要点詳細要点という流れで簡潔に内容をまとめる形で、教材の流れを作成しました。しかし、本コースは、日本へ渡航前のベトナム人向けに、職場での基本的なマナーや日本で快適に生活するための知識を身につけることを目的(例:職場での働き方・挨拶、駅でのアナウンスの聞き取りなど)としていました。そのため、より細かく、誰に向けて作成すべきなのか、教える先生が見てわかりやすい教材かどうかを意識して、教材の流れを定める必要がありました。このようにタスクの目的を明確化することで、丁寧に一つのタスクを実行することの大切さを学びました。

二つ目の学びや気づきは、主に教材作成業務と学生との交流で気づき、学びました。教材作成では、ステップを追って仕事を任せられました。先ほど④の説明で記載した、授業の流れの各ステップが完了するごとに、上司に報告をする。各ステップの作成段階で、疑問点が発生した場合は相談をする。作業が完了しそうでない場合は連絡をすることを徹底しました。

また、交流会では積極的に学生との交流を進めることの重要性を痛感しました。ベトナムの学生は、とてもシャイな人々が多い一方、日本語や日本の文化についての話を積極的にするとより興味を持ってくれるということを学びました。話題が途切れないように、事前に聞きたいことを準備し積極的にこちらから質問をすることや、現地で少し覚えたベトナム語を話してみるなどをすると彼らは非常に興味を示してくれるようになりました。複数回交流会の機会を設けていただいたため、ベトナムの学生の性格を深く学ぶことができました。

最後に、TIKTOK 撮影についてです。TIKTOK 撮影自体が初めての経験でした。TIKTOK のコンテンツを探す際にも、とりあえず面白そうなベトナム語や日本語の勉強になるコンテンツを見つけ出せばいいということではなく、様々な工夫をして撮影をすることの意義を学びました。例えば、Gap を意識したような動画コンテンツを探すや意外と思える興味がわくような動画コンテンツ(表情や動きを加えて表現する動画)を挙げました。実際に、撮影した動画の例を挙げると、車のメーカーの呼び方が、日本語とベトナム語では非常に異なるということを話題にした動画や単語の語尾を省略したり、音を変えたりすることで、くだけた印象を与えたり、より感情をこめること話題にした動画(例:日本語で「くさい」という言葉を、嫌悪感を強く示すために「くっさ」という形で表現)です。このようにバズる可能性のあるコンテンツを工夫して、検索をかけ模倣した動画を撮影することにより視聴回数の増加につながりということを学びました。またこのことにより、企業の TIKTOK アカウントを通じて企業の認知度上昇につながるということも強く実感しました。

⑥ 準備期間・インターンシップ期間中に困ったこと、苦労したこと

準備期間インターンシップ期間中に困難を経験し、乗り越えたと深く実感したのは、教材作成とベトナムの学生との交流です。教材作成の際は当初、学習の流れを統一した形で教材作成を実施しました。しかし、本コースは、日本へ渡航前のベトナム人向けに、職場での基本的なマナーや日本で快適に生活するための知識を身につけることを目的としていたにもかかわらずその目的に合う形で作成をすることができていませんでした。つまり、(例:職場での働き方・挨拶、駅でのアナウンスの聞き取りなど)左記の例にあるような「読む」「書く」練習をすることができる教材を作る必要がありました。この指摘を受け、「読む」「書く」練習ができるような教材の作成を行ったことで、課題を課していただいた方から高評価を受けることができました。ベトナムの学生との交流では、当初の学生との交流の流れは、我々の自己紹介⇒学生からの質問というステップでした。しかしながら、ベトナムの学生はシャイで、なかなか相手側から、積極的に質問をしてくれるということはなく、積極的に質問をしてくれるのは数人の学生のみでした。そこで私は、日本語の授業での交流であるということであったので、日本語の学習の手助けになるようなネタを用意しました。それは漢字の学習における部首の話です。日本語の漢字は膨大な量があり、

何も考えずに大量に書き上げて覚えることは大変です。そこで、漢字の部首の種類を複数挙げて、位置の特徴とその部首を使った感じの例を出すことで、漢字の学習が楽になるという話をしました。例えば、海や清という二つの漢字はともにサンズイという水を表す部首が漢字の左側に位置しており、日本語の文章を読んだ際に、漢字が出てきた際にその漢字が何を意味するか分からなくても、部首の意味さえ理解していれば、水に関する漢字であると理解することができます。このような日本語を学習するうえで、難しい事柄をどのように効率的に学習するかというネタを披露することで、交流会の時間を有効活用することができ、交流会を充実させクラスの学生20人全員から、わかりやすい面白いという高評価をいただくことができました。

⑦ グローバル・インターンシップ(GI)プログラムに応募する後輩へのアドバイス

企業によりますが、GI プログラムでは、積極性とコミュニケーション能力が最も大事になります。ベトナム人は想像以上にシャイで相手から話しかけてくれる人は少ないと考えた方がいいかもしれません。何を質問したいかを事前に定めて、会社の昼休憩または、積極的に外に食べに行く予定の社員の方を昼ごはんに誘って、積極的に質問して仲良くなるのが最善の策かもしれません。また、仕事をする上でもデスクワークは特に、報連相の徹底をするべきです。どのくらい仕事が進んでいるのか、仕事が完了した場合は報告する。仕事の内容でわからないことや聞きたいことややってみたいことがあれば積極的に連絡や相談をすることで、仕事を与えてくださる方からの信頼を獲得できると思います。

⑧ 思い出の写真

